3

4

5

6

7

1　瀬戸内晴美「幻花」挿画　春灯（十）1974-75年　作家蔵
2, 7　静謐な空間
3　瀬戸内晴美「幻花」挿画　夢の世（十一）1974-75年　作家蔵
4, 5　引き伸ばされた大迫力の原画
6　瀬戸内晴美「幻花」挿画　火宅（十）1974-75年　作家蔵

欠けてしまうことさえあります。

じつは、「幻花」の単行本には挿絵は掲載されておらず、こうした文章と挿絵とのズレが生み出す面白さは、当時の掲載紙を読んで頂くしかないのですが、一方で新聞印刷の精度では、挿絵が持つ作品としての魅力はなかなか伝わってきません。今回、原画を展示することによって、画面の塗りむらや下書きの線など、新聞では再現されなかった横尾さんの手の跡を見ることができるとともに、イメージを写し取る高い描写力や細部まで緻密に描き込まれた線の切れ味の鋭さを感じることができたのではないでしょうか。同時に、挿絵を並べてみると、そこにはたくさんの遊び心あるお仕掛けが隠されていることに気づかされます。例えば、挿絵に絞られた落款は、時に人物の着物の柄になったり、画中に描かれた衝立の落款として二重に機能したりと、本来のサインという役割を超えて、画面内のイメージに侵入しています。さらに興味深いのは、ある特定の期間において、映画のコマ撮りのように同じ場面が連続して描かれる場面があることです。小説の「千草」の章では、8日分の挿絵に河原の風景が描かれ、その絵が日ごとに少しずつ変化していきます。他にも、連続する2日間で描きかけだった犬が完成したり、夜空から月が消えたりと、挿絵の中に時間の経過があらわされているのです。

会場では、これらの挿絵を物語にあわせて32章に分け、各章ごとにあらすじパネルを添えて展示しました。さらに、「幻花」の世界をよりダイナミックに感じていただけるよう、原画を横4.8メートルまで引き伸ばして壁面に展示。大きくなってもイメージが明瞭だったり、画面の強度が失われることがないのが、「幻花」挿絵の作品としての完成度の高さを物語っているといえるでしょう。モノクロームの静謐な世界が広がる2階展示室から、緑・赤・紫・黄色の絢爛な色彩に満ちた3階展示室を巡って、物語と挿絵が織り成す「幻花」の濃密で幻惑的な世界を愉しんでいただけたなら幸いです。

林　優｜本館学芸員

Information

次回展関連イベント

横尾忠則展　わたしのポップと戦争

2016年4月16日（土）～7月18日（月・祝）

休館日：月曜日 ※ただし、7月18日（月・祝）は開館
観覧料：一般 700（560）円、大学生 550（440）円、
高校生・65歳以上 350（280）円、中学生以下無料
※（ ）内は20名以上の団体および前売（高校生・65歳以上は前売なし）料金
※障がいのある方とその介護の方（1名）は減免認定があります（65歳以上除く）

講演会　わたしのポップと戦争
講師：難波英夫（セゾン現代美術館館長）、
聞き手：山本淳夫（当館学芸課長）
日時：6月25日（土）14:00～15:30
会場：当館オープンスタジオ
定員：100席（当日先着順、聴講無料、
要展覧会チケット）

イブニング・キュレーターズ・トーク
講師：当館学芸員
日時：5月14日（土）、7月2日（土）
いずれも18:00～18:45
会場：当館オープンスタジオ
定員：100席
※聴講無料、要展覧会チケット
※当日は20:00時まで
「ばんだかふえ」を営業します

その他のイベント情報については
当館ホームページをご覧ください

兵庫県立美術館｜展覧会スケジュール

【特別展】
生誕180年記念　富岡鉄斎 ―近代への架け橋― 展
3月12日（土）～5月8日（日）

1945年±5年　激動と復興の時代　時代を生きぬいた作品
5月21日（土）～7月3日（日）

生誕130年記念　藤田嗣治展 ―東と西を結ぶ絵画―
7月16日（土）～9月22日（木・祝）

【県美プレミアム】
特集　黒のひみつ ―美術のなかの黒をめぐる
小企画　中西 勝展　画業と生涯を偲んで ―兵庫県所蔵作品を中心に―
3月19日（土）～6月19日（日）

特集　新収蔵品紹介（仮称）
小企画　美術の中のかたち ―手で見る造形（仮称）
7月2日（土）～11月6日（日）

※兵庫県立美術館の特別展または県美プレミアムのチケット半券で提示で、
当館の企画展を団体割引料金で買いたいただけます（詳細はホームページなどでご確認ください）

編集後記
今年は横尾さん生誕80周年。まだまだ今後の活躍にも期待が高まります。
さて、次回は当館初の二部構成による「わたしのポップと戦争」展。戦争の記憶と高度経済成長期の華やかな記憶が入り交じる展覧会です。お楽しみに！（藤原）

Topics

「映画とともに：山田洋次×横尾忠則」展開催

2015年10月25日（土）から2016年3月27日（日）まで、西脇市岡之山美術館において、横尾さんと映画監督の山田洋二さんとの異色のコラボ展「映画とともに：山田洋次 × 横尾忠則」が開催されました。
第1室は、おふたりの親しい交流を示すコーナーです。アトリエの改修工事のため絵を描く場所がなくなった横尾さん。そこで監督は、東宝撮影所の一角を仮設アトリエとして提供しました。そこで描かれた作品や、おふたりの日常の様子が分かる写真などが展示されています。第2室は「男はつらいよ」の寅さんが、横尾さんのピンクガールズと架空の対話をするという、なんとも不思議な空間です。ガールズにちょっかいを出しながらも、どこか照れてさそうな寅さんがとてもチャーミングでした。最後の第3室はミニシアター。「男はつらいよ」シリーズのダイジェストに加えて、監督の最新作「家族はつらいよ」から、横尾さんがデザインしたタイトルも特別上映されていました。最近封切られた「家族はつらいよ」には、他にも随所に横尾さんの作品が登場します。展覧会を見逃した方も、ぜひ劇場で二大巨匠の友情のしるしをチェックしてみて下さい。

山本淳夫｜本館学芸課長

山田監督と横尾さん。
ピンク・ルームにて

開館時間
10:00-18:00
（展覧会開催中の
金・土曜日は10:00-20:00）
※入場は閉館の30分前まで
休館日
月曜日（祝日の場合は翌日）
年末年始　メンテナンス休館

facebook
twitter

Y+Tメールマガジン登録
www.ytmoca.jp/news/index.html

Y+T MOCA
〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30
Tel: 078-855-5607（総合案内）Fax: 078-806-3888
www.ytmoca.jp

横尾忠則現代美術館ニュース Vol.12
2016年3月24日発行
編集・発行：横尾忠則現代美術館　印刷：株式会社　大伸社

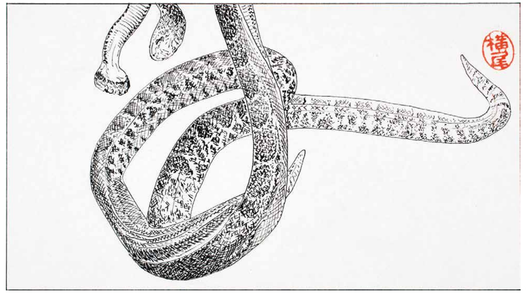
the Y+T Times
横尾忠則現代美術館ニュース

YOKOO TADANORI MUSEUM OF CONTEMPORARY ART　***NEWS LETTER***

Special Report
開館3周年記念展
横尾忠則　幻花幻想幻画譚

Event Report
01　鼎談　瀬戸内寂聴 × 浅田彰 × 横尾忠則
02　「あがた森魚　浦島 2015 at KOBE」ライブレポート
03　イブニング・キュレーターズ・トーク

Preview
横尾忠則展　わたしのポップと戦争
Column
版画展にけて
Editor's Choice
MUSEUM SHOP・アーカイブルーム
Information
次回展関連イベント／兵庫県立美術館 展覧会スケジュール


1

開館3周年記念展
横尾忠則 幻花幻想幻画譚

1974～75年に新聞連載された瀬戸内晴美（寂聴）さんによる「幻花」は、室町幕府8代将軍・足利義政の治世を舞台とした長編時代小説です。連載にあたり、瀬戸内さんはその挿絵をかねてより親交のあった横尾さんに依頼しました。当時38歳、気鋭のグラフィックデザイナーとして活躍していた横尾さんは、少年時代から憧れていた新聞小説の挿絵を描く機会を得て、これを自らの「イラストレーションの総決算」にしようと意気込みます。そしてその言葉どおり、描かれた挿絵は、371点という膨大な数とその完成度の高さのみならず、従来の「挿絵」の概念を覆すようなスリリングで型破りな仕掛けに満ち、横尾さんのグラフィックの仕事の中でも特筆すべき存在感を放っているのです。

「幻花」挿絵の大きな魅力の一つは、奇想天外なイメージにあります。グラフィック・絵画を問わず、横尾作品は基本的に「模写」と「コラージュ」、すなわちオリジナルではなく既存のイメージを引用することによって構成されていますが、「幻花」挿絵の特異な点は、挿絵であるにも関わらず、引用されたイメージが時にストーリーと無関係に展開している点にあります。（柴式部日記絵巻）（鳥獣戯画）といった平安～鎌倉期の絵巻をはじめ、「雨月物語」「地獄門」などの映画スチル、さらには過去の自作のポスターや別の作家の小説の挿絵に描いたモチーフまで、物語の流れや時代背景といった、本来は挿絵の拠り所となるべき制約を易々と受け流して、様々な場所から自在に引用を行っているのです。そこでは、道路標識やビーチパラソルといった現代的なモチーフが紛れ込むこともあれば、作者である瀬戸内さん自身の肖像が突如挿入されるなど、物語世界と現実世界とが交

2

Preview

横尾忠則展　わたしのポップと戦争

《HIROSHIMA-NAGASAKI》| 1995 | 横尾忠則現代美術館蔵

2016年4月16日（土）〜7月18日（月・祝）

当館初の二本立てになる展覧会「横尾忠則展　わたしのポップと戦争」を開催します。第1部「戦争」では、少年時代の横尾さんが体験した、戦争の記憶が様々に反映された作品を特集します。終戦70周年にあたる昨年（2015年）、様々な形でそれを振り返る機会がありました。しかし、それは本来普遍的な問題のはずです。あえて終戦70周年ではないこの時期に、常に若みられねばならない問題として、改めて戦争について考察します。

第2部「ポップ」では、60年代から70年代半ばにかけての、横尾さんのポップアート的な表現をご紹介します。それは本来、大量生産・大量消費社会を背景に、イギリスやアメリカで興った美術表現を指しますが、近年、同時代の国際的な広がりのなかで、ポップアートの女表現を捉え直す試みが相次いでいます。ここでは、そうした文脈において再評価が進みつつある横尾さんの作品を特集します。

「ポップ」と「戦争」は共に20世紀の物質文明の産物であり、コインの裏表のような関係にあります。それらをアーティスト横尾忠則の視点から読み直すとき、果たして何がみえてくるのでしょうか。

山本淳夫 | 本館学芸課長

Column

版画展にむけて

整理作業の様子。1点づつコンディションを確認していきます。

グラフィック・デザイン、絵画、立体と多彩な作品を生み出してきた横尾さんは、版画もこれまで約200点制作しています。このたび、町田市立国際版画美術館と共同で、そうした版画作品の全貌にせまる展覧会を2017（平成29）年度に開催することとなりました。

普段から本館では、学芸スタッフがローテーションを組み、膨大な作品とアーカイブ資料の整理作業を行っていますが、紙作品がまとまって展示される予定が入ると（「幻花幻想幻画譚」展もそうでした）、出品作品の調査、整理、コンディションチェックなどを優先することになります。そういうわけで、現在は横尾さんの版画作品の全貌を把握する作業が進行中です。約200点といっても、版画は複数芸術なので全体量は何倍になるり、同じ絵柄でも複数のエディションがあれば、見比べてより状態の良いものを選んでいくのです。原画やポスター、版画などの紙作品は繊細なので、スタッフは細心の注意を払いながら作品を取り扱っています。作品をつぶさに見ると、紙の質感やインクののりのほか、大量印刷されるポスター作品とは横尾さんの造形思考もふし異なっているようで、非常に興味深いです。こうした調査の成果が反映された展覧会に、ぜひご期待下さい。

山本淳夫 | 本館学芸課長

01

Event Report

鼎談
瀬戸内寂聴 × 浅田彰 × 横尾忠則

2015年12月12日（土）14:00〜15:45　当館オープンスタジオ（1F）

1

『横尾忠則　幻花幻想幻画譚』の開幕を記念して、小説「幻花」の作者である作家の瀬戸内寂聴さん、批評家の浅田彰さん、挿絵を手掛けた横尾さんによる鼎談を開催しました。

じつは、横尾さんは前日の夜、体調を崩して病院に緊急搬送されていたのですが、トーク直前にやや回復し、急きょ登壇へ。処女作品集を「遺作集」と名付けたり、新聞に自分の死亡広告を載せたりと「死」への意識を作品化してきた横尾さんに対し、浅田さんは三島由紀夫さんを引き合いに「両者は対極的。三島さんは予定された死という目的に向かって直進した。横尾さんは死から出発し、死の振懸を反復しながら生き続ける」と評し、「死ぬ死ぬといいながら、今日も見事に復活されて」と冗談めかせました。

小説「幻花」は、瀬戸内さんが73年に得度されて最初に取り組まれた新聞連載小説で、東山文化を築いた将軍足利義政の時代を舞台としています。瀬戸内さん自身「今読み返してみたら、ものすごく面白くって」と語るこの小説ですが、横尾さんが描いた挿絵には、物語の内容や時代背景とは無関係なイメージが度々登場し、瀬戸内さんを驚かせました。それについて横尾さんは「原稿はちゃんと読んでたんですよ。けれど、自分らしくないことはしたくなかった。瀬戸内さんに付いていってるように見せながら、じつは自分の世界をここで表現したいという思いがあった」と、小説を題材に実験していたことを明かしました。一方で、作品それ自体の完成度の高さについて、瀬戸内さんは「展覧会を見て驚いた。こんなに素晴らしい作品だったなんて」と感嘆し、浅田さんも「今見ても全く新しく革命的。グラフィックの仕事のピークだと思う」と賞賛。さらに「横尾さんはメディエーションの人。古今東西のあらゆる図像が横尾さんという宇宙の中に流れ込んで、シャッフルされて出てくる。それが内面から表現する近代の芸術家像と違う横尾さんの特殊なあり方だと思う」と評しました。横尾さん自身「現物ではなく、一旦メディアになったもの、複数化され、大衆化されたものでないと興味がない」と語り、一時期滝の絵を描くために滝巡りに凝っていたときも「目的は滝ではなく虹居。滝のポストカードが欲しかったんです」と言って、会場の笑いを誘っていました。

トークは当館の開館にも及び、「生きている間に大きなお墓を作ってもらった」と、横尾さん。一方、瀬戸内さんからは「でも、ふつうのお墓は閉じ込めるお墓だけど、このお墓は外に開いているお墓。素晴らしいと思う」と美術館へのエールも頂きました。

トークは大いに盛り上がり、予定時間をオーバーして鼎談は終了。満員の会場からは盛大な拍手が送られました。

なお、鼎談の内容は「新潮」2016年3月号にほぼ全文活字化されて掲載されています。ぜひご一読ください。

林　優 | 本館学芸員

1. 超満員の観客を前に興味深いエピソードが次々と飛び出しました
2. 明確な欲い語りロドトークをリードする浅田さん
3. 若者へのメッセージを問われ、「面いとうことはたと言者、頑張ってほしい」と瀬戸内さん
4. 「深は欲いから、欲いスへの意見はありませんと」と横尾さん

2

3

4

02

Event Report

「あがた森魚
浦島2015 at KOBE」ライブレポート

2015年11月15日（日）19:00〜　当館オープンスタジオ（1F）
出演：あがた森魚（Vo.、A.G.）、窪田晴男（G.）、駒沢裕城（Pedal Steel G.）、
　　イトケン（Dr.）、大田 譲（B.）
衣装協力：突撃洋服店

当館開館直後に行われた横尾さんの公開制作にあがた森魚さんが訪れたのをきっかけに「あがた森魚ライブ」が実現したのが一昨年3月のこと。そこで披露された「横尾さんの美術館」を収録する「浦島64」がリリースされたのが、今回のライブのちょうど1年前の11月15日でした。その後、「浦島65BC」、「浦島65XX」と、「浦島」三部作を完結させたあがた森魚さんが、強力なサポートメンバーとともに美術館に帰ってきてくれました。

あがたさんを音楽への道に導いたボブ・ディランとの出会いから50年の節目に、ディランへ「ありがとうとサヨナラ」を告げて、未知のステージに踏み出そうとする、あがたさんの思いが詰まった「浦島」シリーズを中心に構成されたライブは、まさに玉手箱を開けたよう。43年前の代表作「赤色エレジー」から、リリース前の最新曲まで、アンコールも含めてたっぷり13曲、演奏者と観客が一体となって楽しみました。曲間のトークは、公開制作での横尾さんとのエピソード、横尾さんデザインのアルバムジャケットのことなど、当館ならではの特別仕様。会場を和ませる、あがたさんの話術も健在です。

ライブ終了後には、来場者全員に「浦島」三部作からセレクトされたスペシャルバージョンのシングル盤「浦島mini XX」のプレゼントもあり、スペシャルな夜になりました。

平林 恵 | 本館学芸員

「浦島」三部作のCDジャケットは
全て横尾さんのデザイン。
それぞれ下記の作品が使われています。
1. 「浦島64」（300年の夢）1996年。
　東京都現代美術館蔵
2. 「浦島65BC」（《鎌倉の海》）1995年。
　当館蔵
3. 「浦島65XX」（少年時代）1995年。
　兵庫県立美術館蔵

1

2

3

03

Event Report

イブニング・
キュレーターズ・トーク

2016年1月23日（土）18:00〜18:45
当館オープンスタジオ（1F）

仕事で日中に時間の取れない方や、静かな館内で落ち着いて展覧会を愉しみたい方に向けて、当館では毎週金曜日と土曜日に夜間開館を実施しています。今回、この夜間開館日に合わせて、展覧会「幻花幻想幻画譚」の見どころを紹介するイブニング・キュレーターズ・トークを行いました。しかし、当日は西日本を中心に記録的な大寒波が襲来。日も暮れてくんと空気が冷え込み始めましたが、それにも関わらず予想以上に多くの方々にお集まりいただきました。トークの中で「幻花」挿絵に隠された様々な遊び心あふれる仕掛けを紹介すると、すでに展覧会をご覧になった方も、改めてもう一度会場に戻られるなど、みなさん熱心に作品を鑑賞されていました。

さて、展覧会を見終わったら、やはりちょっと一服したくなるもの。今回、イベントの開催にあわせて20時まで「ばんだかふえ」を営業し、トークを聴講いただいた方限定でデザートか前菜を提供させていただくサービスを実施。ゆったりとした時間を過ごせる、優雅なひとときとなりました。

林　優 | 本館学芸員

1

2

1. 興味深い「幻花」の世界について
　聴講していただきました
2. サービスの前菜は
　ビールと一緒にどうぞ！

MUSEUM SHOP　定休日：休館日に同じ　Tel：078-855-5697

鼎談「瀬戸内寂聴 × 浅田彰 × 横尾忠則」の開催当日、待ち時間に瀬戸内寂聴さんがミュージアムショップをご覧になりました！横尾さんの大ファンでもある瀬戸内さんは、目を輝かせながら熱心に店内を回られ、様々な商品をお買い求めくださいました。

ご購入いただいた商品から2点ご紹介いたします。一つ目は、『髑髏お茶碗』（税込2,700円）。男女が優雅に踊っていますが、よくよく見ると隙間には髑髏が！横尾さんらしい一品です。二つ目は、「泣き笑いDOTロングスリーブシャツ ホワイト」（税込19,440円）。可愛いドット柄に瀬戸内さんの喜ばれる顔がとても魅力的で、スタッフも思わず顔がほころびました。

藤原晴日 | 本館学芸員補助

1. 横尾さんのグッズを
　楽しそうにご覧になる瀬戸内さん
2. トラロッカチャームポイントの
　お茶碗です

1

2

Editor's Choice >>> *MUSEUM SHOP・アーカイブルーム*

アーカイブルーム

横尾さんは新聞連載小説「幻花」以外にも、瀬戸内寂聴さん著作の挿絵や装幀を数多く手掛けています。「幻花」の挿絵は小説のストーリーに近づいたり飛躍したりしながら描かれましたが、装幀作品はどうでしょうか。

『談談談』（1974年、大和書房）には尼僧となったばかりの瀬戸内さんの肖像画を中心に、天台宗である瀬戸内さんにあわせ天台密教的なモチーフが使われています。一方で“赤の時代”の作品や滝をデザインに用いたり、コンピュータ・グラフィックス技法を駆使したりと、当時の横尾さん自身の絵画制作の影響が色濃く出ている装幀も多数あります。装幀作品でも横尾さんらしい、本の内容と付かず離れずの自由で多様な表現が続け広げられています。

奥野雅子 | 当館学芸員補助

1. 瀬戸内寂聴《瀬戸内寂聴》
　『談談談』1974年 大和書房　作家蔵
2. アーカイブルーム展示風景より。
　横尾さんが原画を手掛けた
　瀬戸内寂聴さん著作。ごく一部です。

1

2